

第55回 熊本県小学校家庭科教育研究大会

菊池・山鹿大会

大会主題

「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」

～課題設定と振り返りの工夫を通して～



【副菜】ポテトサラダ



【主菜】からあげ



【主食】ごはん



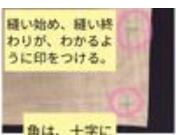
【汁物】みそ汁



ガーゼマスクを使った布巾の製作



縫い始め、縫い終わりが、わかるように印をつける。



角は、十字に印をつける。



印の少し外側にしつけをかける。



玉止めの前に必ず糸しごきをしよう。



同りの辺は2枚重ねて折り、返し口の辺は、それぞれに折る。

期日 令和6年10月31日(木)

会場 合志市立合志南小学校

【主催】熊本県小学校家庭科教育研究会 菊池・山鹿小学校家庭科実行委員会

【後援】熊本県教育委員会 合志市教育委員会 菊池市教育委員会 山鹿市教育委員会

大津町教育委員会 菊陽町教育委員会 日本教育公務員弘済会熊本支部

目次

1	県会長あいさつ	熊本市立川上小学校 校長 古家慎也	P1
2	実行委員長あいさつ	合志市立合志南小学校 校長 土井昭子	P2
3	大会要項		P3~4
4	研究の全体		P5~14
	I 研究設定の理由		P5
	II 研究主題について		P6
	III 研究の仮説		P7
	IV 研究の視点		P7~13
	V 研究の構想図		P14
5	指導案		P15~25
	5年 消費・環境「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」		
	6年 食生活「まかせてね 今日の食事」		
	5年 衣生活「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」		
	6年 課題と実践「生活を変えるチャンス!」		
6	運営組織一覧		P26
7	あとがき 研究同人		P27
8	会場図		P28

ごあいさつ

熊本県小学校家庭科教育研究会

会長 古家 慎也

昨年度、4年ぶりに参集の形態で開催できました熊本市大会においては、公開授業及び授業研究会に趣をおき、一堂に会することなく、各分科会会場へのオンライン配信を導入した全体会など、新たな試みを取り入れ、県内各地から140人を超える先生方に参加いただき、盛会となる研究大会となりました。

今年度からの県大会は、コロナ禍も相まって加速した厳しい研究会事情に鑑み、今後も持続可能な大会となるよう、いくつかの改革を進めています。まず、これまで県内12支部を持ち回りで開催していたものを、6ブロックに再編し、ブロック開催とすることにしました。さらに、3～4年に一度は熊本市が担当し、熊本市が担当したあとの開催ブロックは、熊本市の追試を行う方法、つまり、熊本市が行った授業と同じ授業、もしくは改善・改良した授業を行うことを可能とすることで、少しでも開催ブロックの負担を軽減していきたいと考えています。さらに、領域ごとに、熊本市から研究協力員を位置づけ、授業づくりの相談等ができる体制を整え、熊本市と開催ブロックの連携にも配慮しています。実際、今年度の菊池・山鹿大会においては、昨年度の熊本市大会の実践をもとに、大会の準備や授業づくりに取り組んでいただきました。

今夏の文科省からの説明資料では、家庭部会において、学習指導要領の「よりよい実施」を目指して、その前提となる「着実な実施」を基盤とした日々の授業の質の向上が示されています。さらには「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する」学習過程において、課題の解決に向けた授業を展開することの重要性も示されています。

また、GIGAスクール構想のもと、一人一台端末は有効な学習ツールとなり、これまでの「教える授業」から、児童主体の「学びとる授業」への転換が求められています。

このような状況下において、熊本県小学校家庭科教育研究会家庭科部会では、全国小学校家庭科教育研究大会の大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」を研究テーマに掲げ研究を進めております。本大会を迎えるにあたっては、菊池・山鹿大会実行委員長の土井昭子校長先生をはじめ、支部会員の皆さまの献身的なお取り組みとご苦労があったこととお察しいたしますが、研究の成果を熊本県内の先生方と共有できる大会となることができれば幸いです。

終わりにりましたが、本大会を後援いただきました、熊本県教育委員会様、合志市、菊池市、山鹿市、菊陽町、大津町各教育委員会様、ならびに日本教育公務員弘済会熊本支部様、これまでご指導をいただき本日のご助言もいただきます熊本大学の八幡彩子教授、市町村教育局義務教育課の清永康代指導主事、他お二人の校長先生に心から感謝申し上げます。併せて、本大会に向けて研修を積み、準備を重ねて来られました菊池及び山鹿小学校家庭科教育部会及び大会会場となりました合志市立合志南小学校の先生方のご協力に厚くお礼を申し上げごあいさつといたします。

ごあいさつ

菊池・山鹿大会実行委員長 土井 昭子

令和6年度第55回熊本県小学校家庭科教育研究大会、菊池・山鹿大会にご参会いただき、誠にありがとうございます。これまでは、菊池と山鹿それぞれで小学校家庭科教育の研究を進めて参りました。この度、ブロック開催ということで、合同研究を行う機会をいただきました。昨年度の熊本市大会の追試ということで、研究主題を引き継ぎ「授業メイン」のスマート県大会をめざしてきました。本日は、家庭科のよさを感じていただき、みなさんと一緒に今後の熊本県家庭科教育の充実を図ることができればと思っております。

さて、予測困難で変化の激しい時代に突入し、グローバル化、少子高齢化など、家庭生活をはじめ社会生活においても多様化が急速に進んできました。子どもたちの身近な環境も大きく変化しています。このような社会を生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう工夫していく力が求められています。日常生活に密接に関わる教科ですが、子どもたちの経験の差や環境の違いが大きく、また、日常であるが故に課題が見えづらいという実態もあります。学習指導要領では指導内容について、「家庭生活を大切にすることを育むための学習活動」「人とよりよく関わる力を育成するための学習活動」「食事の役割・調理に関する学習活動」さらに、「日本の生活文化の大切さに気付く学習活動」を充実させるとされています。学習の中に、意図的に自分の生活を振り返り改善する活動を設定することで、自らの生活の問題に気づき、生活をよりよくしようと工夫する子どもたちを育成することができると思います。

大会主題は、昨年同様「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」としています。研究の仮説及び研究の視点も熊本市大会を継承しています。子どもたちは、自分の生活と関連付けながら共通の課題解決に取り組むことで、主体的に学び探求します。振り返りでは、ICTを効果的に活用しながら学んだことを蓄積し、よりよい暮らしの工夫につなげます。予測困難な時代を力強く生きる子どもたちを思い描きながら、自ら学びとった学習を生活に生かそうとする姿、生活をよりよくしようとする姿が見られればと思います。研究を進める上で、熊本市の研究協力員の皆様、そして各地区の評議員の皆様にご協力いただきました。感謝申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催においてご支援を賜りました熊本県教育委員会、合志市教育委員会、菊池市教育委員会、山鹿市教育委員会、菊陽町教育委員会、大津町教育委員会、日本教育公務員弘済会熊本支部の皆様本当にありがとうございました。指導・助言をいただきました熊本県教育庁市町村教育局義務教育課 指導主事 清永康代 様、熊本大学大学院教育学研究科教授 八幡彩子 様、泗水西小学校長 福島恵美子 様、泗水東小学校長 前田美幸 様、そして、大会の研究及び運営等でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。ごあいさつと致します。

第55回 熊本県小学校家庭科教育研究大会（菊池・山鹿大会）開催要項

1 目的

「生活をよりよくしようと工夫する子供の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」の主題による研究・実践の成果を公開し、熊本県内の小学校家庭科教育の振興と充実・発展を図る。

2 主催

熊本県小学校教育研究会家庭科部会

3 後援

熊本県教育委員会 合志市教育委員会 菊池市教育委員会 山鹿市教育委員会
大津町教育委員会 菊陽町教育委員会 日本教育公務員弘済会熊本支部

4 令和6年度 菊池・山鹿大会を開催するにあたって

- 授業メインの「スマート県大会」をめざす。
- 対面での開催とし、午後半日の日程とする。
- 公開授業を4本設定（2本×2コマ）する。指導案は令和5年度熊本市大会の様式を参考とする。
- 全体会は、全体会配信会場から授業研究会会場へオンライン配信する。
- 大会紀要及び指導案等は県研究会ホームページに掲載し、当日参加者にも配付する。
- 会費は最小限に止め、経費削減を行う。
- 各支部からの展示は行わない。ただし、必要に応じ菊池・山鹿の展示や掲示を行う。
- 業務を分担し、連携を密にすることにより一部に負担がかからないように協力し合う。

5 日時 令和6年10月31日（木） 12:40～16:40

6 会場 合志市立合志南小学校

受付 中棟と南棟の間
公開授業及び授業研究会 南棟5, 6年教室
全体会 同上（校内オンライン）
*校内オンライン：全体会配信会場（多目的室）⇔5, 6年教室

7 日程

12:40～13:15（35分）	受付
13:20～14:05（45分）	公開授業①
14:15～15:00（45分）	公開授業②
15:10～15:50（40分）	授業研究会〔4分科会〕
16:00～16:40（40分）	全体会

*会場校（合志南小） 公開授業クラス以外は給食後下校予定（13:30）

8 参加費 500円（当日、受付で徴収）

9 授業者・助言者・講評

	学年・組	領域	題材	授業者	助言者
公開授業①	5年3組	消費・環境	持続可能な社会へ物やお金の使い方	後藤春奈 教諭 (鹿本小)	八幡 彩子 教授 (熊本大学)
	6年2組	食生活	まかせてね 今日の食事	坂田光 教諭 (南ヶ丘小) 山本弥生 栄養教諭 (合志小)	前田 美幸 校長 (泗水東小)
公開授業②	5年2組	衣生活	ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活	有働加織 教諭 (隈府小)	福島 恵美子 校長 (泗水西小)
	6年3組	課題と実践	生活を変える チャンス！	岩本圭祐 教諭 (西合志中央小)	清永 康代 指導主事 (市町村教育局 義務教育課)
全体会講評					清永 康代 指導主事 (市町村教育局 義務教育課)

10 授業研究会および全体会次第

(1) 授業研究会

※会場責任者、司会者（領域担当者）

記録、写真記録

- ① 開会及び関係者紹介 (司会者)
- ② 授業者自評及び質疑・応答 (授業者)
- ③ 研究協議 (司会者)
- ④ 指導・助言 (指導助言者)
- ⑤ 閉会 (司会者)

(2) 全体会

<全体会配信会場参加・参列者>	
大会関係者：	県支部会長・副会長、県支部事務局長、研究部長、広報部長
	記録者、ICT関係者
来賓	：分科会助言者（4人）

※全体会会場責任者（支部会長 土井）、司会（支部副会長 高木）

記録及び記録（広報部）

- ① 開会 (県副会長)
 - ② 県会長挨拶 (県会長 古家)
 - ③ 実行委員長挨拶 (菊池・山鹿支部会長 土井)
 - ④ 関係者紹介 (司会 高木)
 - ⑤ 研究発表 (菊池・山鹿支部研究部長 吉良、田中)
 - ⑥ 指導・講評 熊本県教育庁市町村教育局義務教育課 清永 康代 指導主事
 - ⑦ 次年度開催ブロック挨拶【荒尾・玉名】
 - ⑧ 閉会 (県副会長)
- ※諸連絡 (菊池支部会長 土井)・車の出口、アンケートなど

11 その他

運営組織、業務一覧、スケジュール、会場配置図は別途定める。

自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成 ～課題設定と振り返りの工夫を通して～

I 主題設定の理由

1 社会的背景

世界中に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、3密の回避など新しい生活様式への変換が推進され、子どもたちの生活環境は一変した。昨年5月、3年の時を経て、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になり、一律に日常における基本的感染対策を求めることがなくなり、子どもたちの生活もようやく以前に戻りつつある。このような状況において、当たり前だった日常、家族や家庭、地域で支え合うことの大切さを実感した。

学習指導要領では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することが、目標として明示されている。その中で、「日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、技能を身に付けること」、「日常生活から問題点を見出して課題を設定し、課題を解決する力を養うこと」「家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと」が求められている。

子どもたちは、グローバル化の進展、技術革新、少子高齢化、持続可能な社会の構築、人工知能(AI)の進化など予測困難な社会を生き抜いていかなければならない。こうした状況の下、豊かな生活を築くためには、家族や周りの人々と知恵を出し合い、協力して問題を解決しようとする態度や複雑で困難な問題に対応する能力が重要となる。

これからの持続可能な社会の構築に向け、子どもの生活とつながる課題設定と振り返りを積み重ねることにより、生活をよりよくしようと工夫する子どもの育成を目指したいと考える。

2 家庭科学習に関する実態

家庭科学習に関する実態を把握するために、菊池郡市・山鹿市の小学5年生(265人)、6年生(262人)、菊池郡市・山鹿市の小学校教員(18人)に意識調査を行った。※令和6年5月実施

○ 子どもの実態

家庭科に関する興味・関心は高く、「生活に役立つ

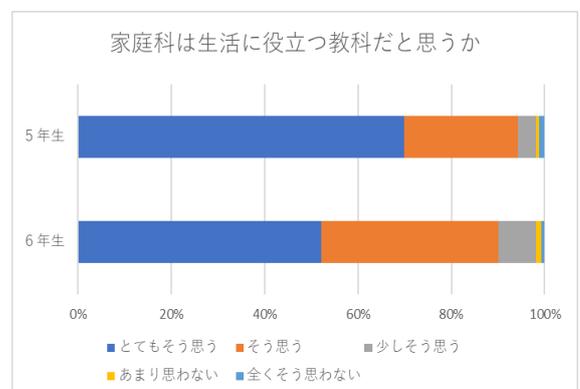


図 1 児童の実態 1

つ教科だ」と考えている子どもが9割を超えている。(図1)

「家庭科を学んで家庭での生活が変わった」と答えた子どもも6割以上いる。(図2)

その一方で、「生活を変えた方がいい」と思う子どもは4割程度にとどまっている。(図3)

また、近年社会的に求められているSDGsを知っている子どもは8割を超えるが、環境に配慮した生活に取り組んでいるという子どもは6割程度である。(図4)(図5)

生活をよりよくしたいと考えるためには、自分の生活を客観的に見つめる場面の設定や、SDGsと生活を結び付ける手立てが必要である。

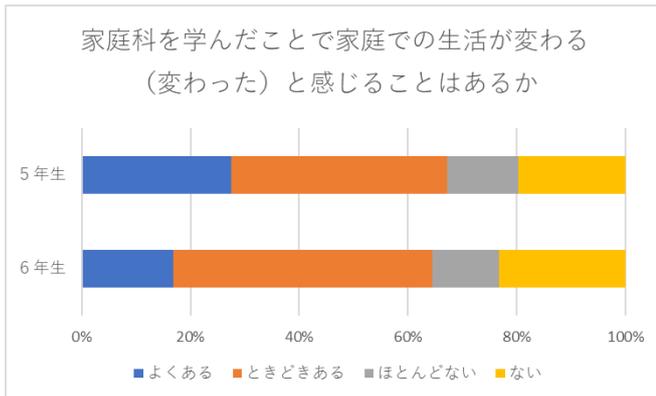


図2 児童の実態2

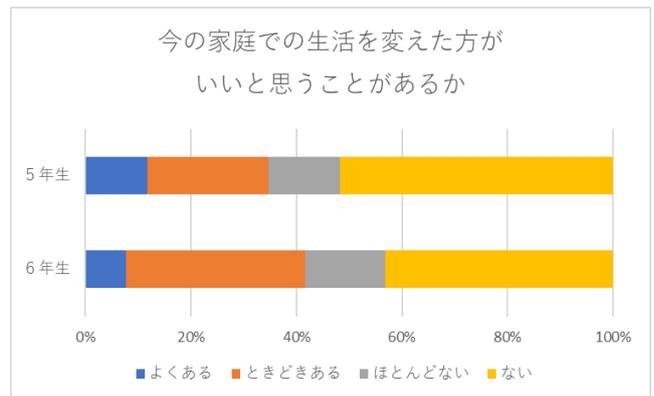


図3 児童の実態3

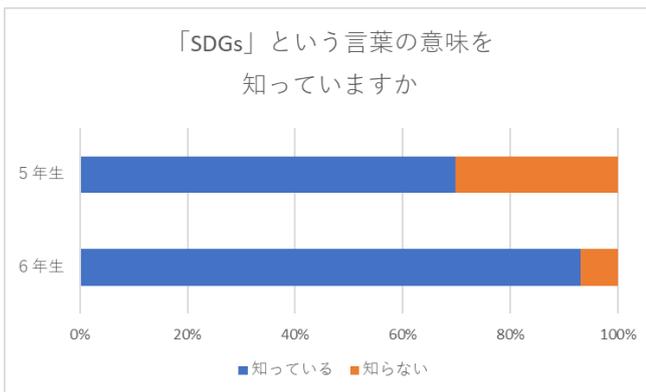


図4 児童の実態4

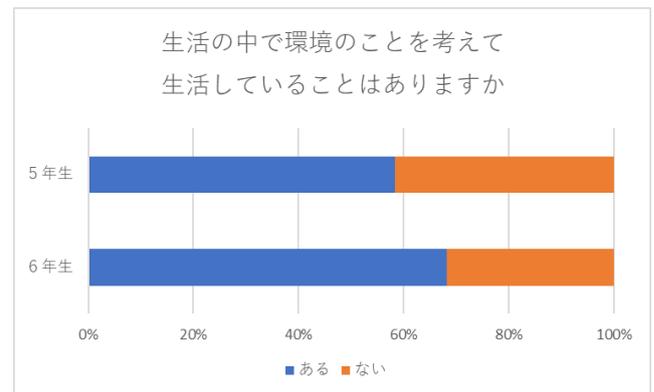


図5 児童の実態5

○ 教員の実態

学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成することが求められている。「実践的・体験的な活動を行っているか」「問題解決的な学習を行っているか」という問いには、8割以上の教員が取り組んでいると答えている。(図6)(図7)

家庭科に対する困り感には、「児童の生活経験の差が大きい」「子どもたちにどう課題を意識させる

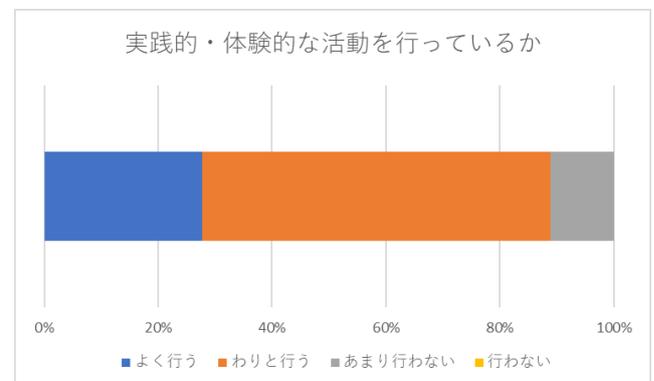


図6 教員の実態1

か」「用具など実習に必要なものの準備」「実習の評価」「学習をどうやって家庭実践へつなげるか」などが挙がっていた。これらの結果から、実践的・体験的な活動を通して、問題解決的な学習を進めているが、家庭科の学習指導に対する達成感や手応えは、「少しある」と答えた教員の割合が最も大きく、「とてもある」の割合と大きな開きがあった。生活における問題を見出し、問題解決的な学習を通して、自分の生活と学びを結び付け、生活をよりよくしていこうとする子どもを育成するため、学びを構築する教師の力量を高めていかなければならない。

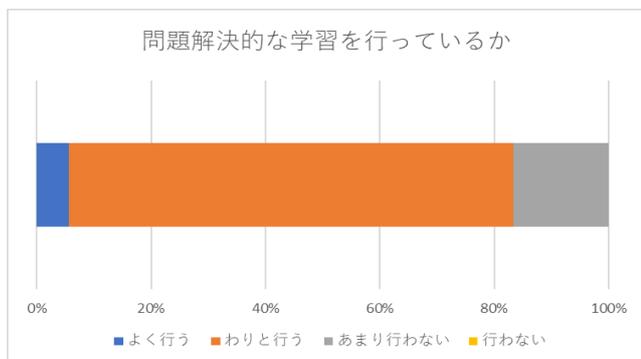


図 7 教員の実態 2

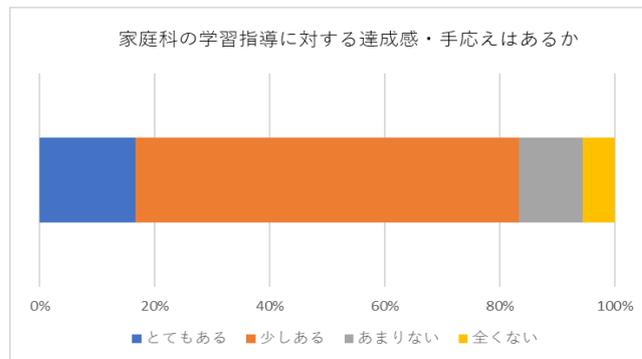


図 8 教員の実態 3

II 研究主題について

「生活をよりよくしようと工夫する」とは、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて生活を創意工夫することである。日常生活の問題解決に主体的に取り組み、協働して解決することを通して、家庭の仕事の意義や大切さを理解する。さらに、理解したことをもとに目的や状況に応じて、健康・快適・安全で豊かな衣食住の生活などを実現する力や実践的態度を育てることを意図している。

III 研究の仮説

子どもの生活に近い設定家族の提示と課題設定、それを解決する学習、自分の成長や生活の変容を実感できる振り返りをすれば、自らの生活の問題に気づき、生活をよりよくしようと工夫する子どもが育つであろう。

IV 研究の視点

1 視点1 課題設定の工夫

子どもや教員の実態から、「問題を見出して課題を設定すること」が現在の大きな課題であると考えられる。しかし、子どもを取り巻く家庭環境はさまざまであり、配慮を要する。また、子どもはそれぞれの生活が日常のことであり、その生活に疑問をもつことは難しい。そんな状況を改善すべく、設定家族(はるさん)を登場させ



はるさん
 小学5年生
 家族 父、母、
 かえでさん(小学3年生)
 好きなこと
 ・ゲームをすること
 ・まんがを読むこと
 ・食べること

た。(図9)

それぞれの題材で学習する内容を踏まえ、その内容ができていないために困っているはるさんのスライドを題材の導入で提示した。スライドを使用し、はるさんの生活上の問題をクラスで共有する中で、自然と自分の生活と比べ、共感しながら問題を見出して、自分の学習の課題を設定する。また、設定した課題は学習のゴールと共に振り返りシートに明記し、題材の学習中、常に意識できるようにする。

6年生の「生活を変えるチャンス！課題と実践」(東京書籍)では、設定家族の1日のスライドを題材の導入として用いる。既習事項から、家族の衣食住における家事分担の偏り等を取り上げ、はるさんの生活の中から問題を見出し、課題を設定し、どのようなことに取り組みばよいかを考える。

6年生の「まかせてね 今日の食事」(東京書籍)では、はるさんが考えた献立をもとに、栄養バランスのよい献立のポイントを理解して献立を作り直す活動を通して、解決の見通しをもつことができる。その後、自分の家族の問題を見出し、解決につなげていく。

2 視点2 指導の工夫

家庭科では、自分自身の生活を見つめ、基礎的・基本的な知識・技能をそれぞれの家庭生活の状況に応じて活用しながら、問題解決に主体的に取り組む子どもたちを育てたい。そのためには、教師が主導的に教える授業から、子どもが自ら問題解決の方法を友達と協働しながら、探究していく授業へと転換を図る必要があると考えた。

また、問題の解決のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する必要がある。その上で習得した知識・技能をもとに製作や調理の計画を考え、実践し評価・改善する活動を通して、家庭での実践に向かう力を育てていく。さらに、一連の学習活動において、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて問題を見出し、課題を設定し、解決していく学習が、生活をよりよく工夫する力の育成につながっていくと考える。

(1) 思考力・判断力・表現力を育むための状況設定の工夫

5年生の「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」(東京書籍)では、学習活動の中に、お店での買い物だけでなく、電話注文やインターネットショッピングなど、実生活に近い状況設定を取り込むことで、よりよい消費者になるための思考力・判断力が身に付くと考える。そこで、何を買うのか・どのような方法で買うのか・どのようにして支払うのか、実際の買い物場面を想起できるようにする。

6年生の「まかせてね 今日の食事」(東京書籍)では、はるさん家族を設定し、家族の健康につながる副菜を考える活動を取り入れる。その際、タブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)を使って考えていく。(図10)



図10 栄養バランスチェック表

この副菜は子どもたちになじみのあるメニューであり、献立の材料や作り方を確認しながら、情報を比べ

ることで、よりよい献立を考えることにつながる。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する場の工夫

5年生の「ひと針に心をこめて」(東京書籍)では、初めての手縫いで、玉結び、玉どめ、なみぬいなどを児童が学習する際に、地域の方にゲストティーチャーとして協力していただいた。教科書のQRコンテンツの裁縫技能動画も充実しているが、玉どめなどにつまずいている児童には、ゲストティーチャーの指導がとても効果的だった。(図11)



図 11 地域の方に裁縫を教えてもらう児童

6年生の「こんだてを工夫して」(開隆堂)では、調理実習を個別で行った。ゆでたり、いためたりしておかずを作る知識と技能が習得できるジャーマンポテトの調理計画を立て、実習に取り組んだ。一人調理では、一人で食事作りの準備から調理、片づけまでを実習することで、連続して調理の基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。一人調理で身に付けた知識と技能を、次時の一食分の献立づくりと、その調理計画を立てる学習に生かし、家庭実践につなげることができた。

(3) 学びを深めるための対話的な活動

「なぜ、この部分を返し縫いするのか」「なぜ、じゃがいもは水からゆでるのか」などの理由について、考えたり話し合ったりすることで、その技能の特徴について気付かせる。気付くことで、他の実践にも生かすことができるようになると思う。

(2)で述べた一人調理では、ペアを組んで、一人が実習をする児童、それを観察しサポートする児童と役割分担をして、互いに学び合いながら学習するようにした。実習中や試食の際に、もっと上手にできるように具体的にアドバイスをしたり、良かったところを取り入れようとしたりする姿が見られた。(図12)



図 12 実習する児童とサポートする児童

6年生の「まかせてね 今日の食事」(東京書籍)では、設定家族の献立を考えさせることで、自分の家族の問題と重ねさせた。「家族が健康になる献立だから、栄養バランスが取れた献立にしなれば」と主食(ごはん)、主菜(唐揚げ)、副菜、汁物に何を入れるとよいのかをレシピ集やタブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)をもとに献立をペアで考えるようにする。(図13)



図 13 献立をペアで考える

料理に含まれる材料の栄養素を黄赤緑のスタンプで表現させ、「緑を増やすには、どのようにしたらよいか。」考えていく。「みそ汁の実に野菜を使う。」「副菜を野菜がたくさんとれる料理にする。」など栄養バランスを整えるための工夫について気付かせる。

(4) 教材・教具の工夫

6年生の「まかせてね 今日の食事」(東京書籍)では、はるさん家族の副菜を考える場面で、材料や作り方と連携したタブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)を活用している。容易に試行錯誤ができ、写真や作り方などを見ることができ、子どもたちにとってわかりやすい。

5年生の「ソーイングはじめの一步」(開隆堂)では、ウォールポケットを製作することを題材のゴールに設定し、ミシンの技能を身につける際に、コロナ感染対策で大量に配布された布マスクのガーゼを使用した。布マスクの縫い糸をほどいたガーゼを2枚重ねて、食器布巾を製作した。(図14)

直線縫い、返し縫い、角の縫い方、中表に縫うなどの知識や技能を身につけながら、食器布巾を完成させ、ミシンを使って生活に役立つものを作り上げる喜びを感じることができた。この喜びや身に付けた知識・技能は、題材のゴールであるウォールポケット作りの計画や製作に生かされた。布マスクのガーゼを使用したことは、(5)のSDGsの意識づけにも効果的だった。(図15)(図16)



図14 布マスクの糸をほどく児童



図15 布巾をミシン縫いする児童

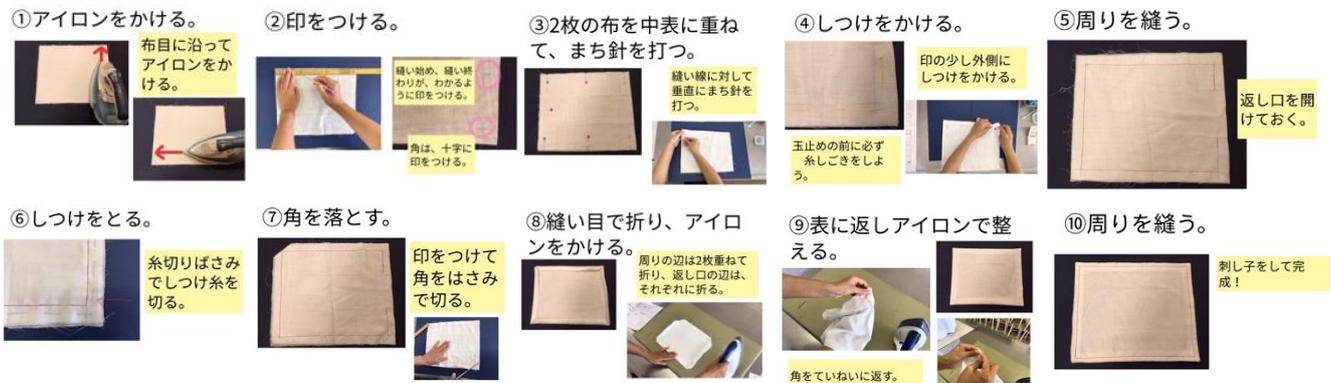


図16 ガーゼマスクを使った布巾の製作の手順

(5) SDGsの意識づけ

近年、SDGsという言葉が世の中にあふれるようになってきた。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。これからの社会を作っていく子どもたちにとって重要な考え方であり、家庭科と関連する項目も多い。しかし、教員が意識して取り扱うかによって子どもたちの学びも変わってくると考えられる。5年生の「持続可能な社会へ 物や金の使い方」(東京書籍)では、商品を選ぶ際の視点に環境を取り上げる。資源に配慮して作られたものについて知ること、食品ロスを減らすために賞味期限・消費期

限を見て選ぶこと、包装について考えることなどで持続可能な社会につながることを知る。そして、子どもたちは次からの商品選択の考え方として使えるようになる。

5年生の「ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活」(東京書籍)では、「ずっと使えるエプロンを作りたい」という子どもの願いから、裾のぬいしろを大きくとったり、縫い方を工夫したりすることで、永く使い続けられることをおさえる。そのようなことから、エプロンを大切に使うことで、今後も環境への意識を持ち続けていくと考える。(図17)

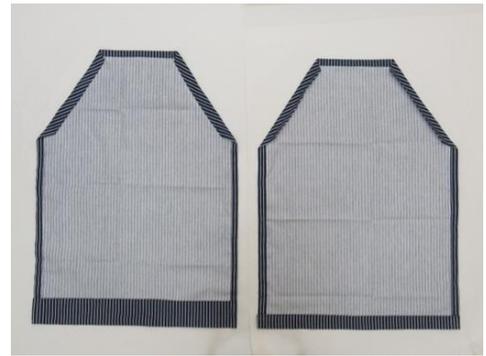


図 17 裾のぬいしろを大きくとったエプロン

6年生の「生活を変えるチャンス！ 生活の課題と実践」(東京書籍)では、それぞれの課題発見時の視点として、家庭科の「生活の営みに係る見方・考え方」を与えることで、「持続可能な社会」につながるかも考えながら計画につなげていった。

(図 18)

6年生の「まかせてね今日の食事」(東京書籍)では、ごはん、味噌汁、からあげ(主菜)に合わせたおかずを考える時に、冷蔵庫にある材料を使って考えるという課題を出した。献立を考える際には、栄養バランスを考慮することが重要であるが、食品を組み合わせる時に、消費期限が近いものを使い、食品を最後まで使い切ることに意識を向けるようにした。また、町の特産品の「にんじん」についてとりあげ、献立作りで地産地消を取り入れる視点があることも児童は学習した。(図 19)

家庭科の窓から生活を見つめよう	
協力	家族や地域の人々と協力して生活しているかな？
健康・快適・安全	健康や快適、安全に気をつけているかな？
生活文化	日本の生活文化を大切にしているかな？
持続可能な社会	環境に配慮し、豊かな未来をつくれそうかな？

図 18 「生活の営みに係る見方・考え方」



図 19 食材を無駄なく使うことを意識させた献立作り

3 視点3 振り返りの工夫

学習支援アプリ(ロイノート)を活用し、題材を通した1枚の振り返りシートに蓄積していく。振り返りシートでは、題材の導入時に「知りたいことやできるようにになりたいこと」から学習のゴールを設定して、題材の見通しをもつことができるようにする。また、毎時間の振り返りでは、「これまで」「今日の学び」の視点で振り返りを書く欄を設け、題材の学習と生活をつなげられるようにする。教師からのコメント欄はチェック方式にして、子どもたちへの返しもスムーズに行えるように工夫する。

次時の初めに振り返りを紹介することで、学習内容の再確認や学習意欲を高め、活動内容の確認も行えるようにする。(図20)

できることを増やしてクッキング

これまでの自分

私は、家でコンロを使ったりあまり料理をしていなかったです。そしてごはんの手伝いもあまりしなかったです。

できるようになりたいこと

野菜を炒めたり、食材を切ることが自信がないので自信を持てるようになりたい。

学習のゴール

炒める調理を工夫して、朝食に生かすことができる。

学習を終えての振り返り

私は学習を終えて休日の日に家族にたまご料理や野菜炒め、オムライスとかを作ってあげて家族と話したり顔を見合うことを増やしていきたいと思いました。

5月 8日

めあて
「ゆでる」と「炒める」のちがいで考えて、炒める調理のよさを見つけよう

今日の学び
炒めるは、油をひいたフライパンに食品を入れてかき混ぜながら加熱することで茹でるは、ふっとうした湯の中で食品を加熱することがわかりました。この授業をして炒めると茹での違いがわかったコンロの使い方もわかった。

これから
この授業で習ったことを家で活かして家族と過ごす時間を増やしたりしていきたいです。

自己評価
◎ ○ △
○

すばらしい
 みんなに紹介して
 生活に活かすことを書こう
 学んだことを具体的に書こう

図 20 振り返りシート

4 ICTの活用について

視点1,視点2,視点3の活動をより効果的に進めるために,ICT を積極的に活用する。下表は,学習過程の中での活用場面や,活用方法,活用の効果を一覧に表したものである。本研究では,各学習過程と視点1,視点2,視点3との関連を明記し,活用を進めた。

表1 ICT活用一覧表

ICT活用 学習過程	<活用場面> [視点] ●方法 ○活用の効果	・学習形態 (活用機能)
1. 生活の問題発見・課題設定 ・生活を見つめる。 ・問題を見出し,課題を設定する。	<課題・問いを提示する場面> [視点1,視点3] ●比較可能な画像を用いる。 ●問題の隠されたプレゼンテーションを用いる。 ●アンケート結果を用いる。 ○具体的な学習のイメージをもつことができる。 ○興味・関心や意欲を高めることができる。 ○学習のゴールのイメージが容易。 ○自分たちの課題を自覚しやすい。	・一斉 (カメラ機能,ファイル共有機能)
2. 解決方法の検討と計画 ・知識及び技能を習得し,解決方法を検討する。 ・解決の見通しをもち,計画を立てる。	<思考・判断・表現させたい内容を提示したり,自分の考えを表現したりする場面> [視点2] ●段階見本の画像をデジタルカードにし,画面上で動かす。 ●1食分の献立作成プログラム(熊本市教育センター作成)を使って,栄養を確かめる。 ●比較可能な画像を用いたワークシートに考えを記入する。 ○各自の意見を可視化し,共有することで,対話的な深い学びを促す。 ○主体的な学びにつながる。 ○修正が容易なので臆せず取り組める。 ○計画の見直しに生かせる。 ○具体的なイメージを持てるため,対話が活性化する。 ○全体共有が容易。	・個別 ・協働 (カメラ機能,コメント機能,ファイル共有機能)
3. 課題解決に向けた実践活動 ・知識及び技能を活用し,実践する。 ・知識及び技能を活用し,実習や調査,	<対話を通した学びの変容に向けたしかけの場面> [視点2] ●デジタル付箋を互いに交換する。 ●班で1枚のシートを編集する。 ○リアルタイムで共有できるため,対話が活性化し,よりよい方法を探ることができる。	・個別 ・協働 (カメラ機能,コメント機能,ファイル共有機能)

<p>交流活動を行う。</p>	<p>○リアルタイムで子どもの活動状況が把握でき、必要に応じた支援が可能。</p> <p>○発表の際の全体共有が容易。</p> <p>●電子黒板に各自の意見を映す。</p> <p>○リアルタイムで子どもの活動状況が把握でき、必要に応じた支援が可能。</p>	
<p>4. 実践活動の評価・改善</p> <p>・実践した結果を評価する。</p> <p>・結果を発表し、改善策を検討する。</p>	<p>〈評価・振り返りの場面〉</p> <p>[視点3]</p> <p>●1枚にまとめた題材振り返りデジタルシートを一斉送信する。</p> <p>●画像を用いた実践報告書作り。</p> <p>●画像を用いた成果物の作成。</p> <p>○題材を通して自己の成長や思考の変容が分かる。</p> <p>○共有が容易で、多様な考えに触れることができる。</p> <p>○コメントを送り合うことで自己評価、改善に生かすことができる。</p>	<p>・個別</p> <p>・協働</p> <p>(コメント機能, ファイル共有機能)</p>
<p>〈学習過程全体において〉</p> <p>(児童・生徒)</p> <p>○蓄積していくことが容易。</p> <p>○加筆修正など編集が容易なので、失敗を恐れず取り組める。</p> <p>(教師)</p> <p>○プリント配付の回収の時短になる。</p> <p>○教師の評価がしやすい。</p> <p>○実物等の準備が減る。</p>		

【筒井恭子編著「1人1台端末を活用した授業づくり(小学校家庭科)」参照】

V 研究の構想図

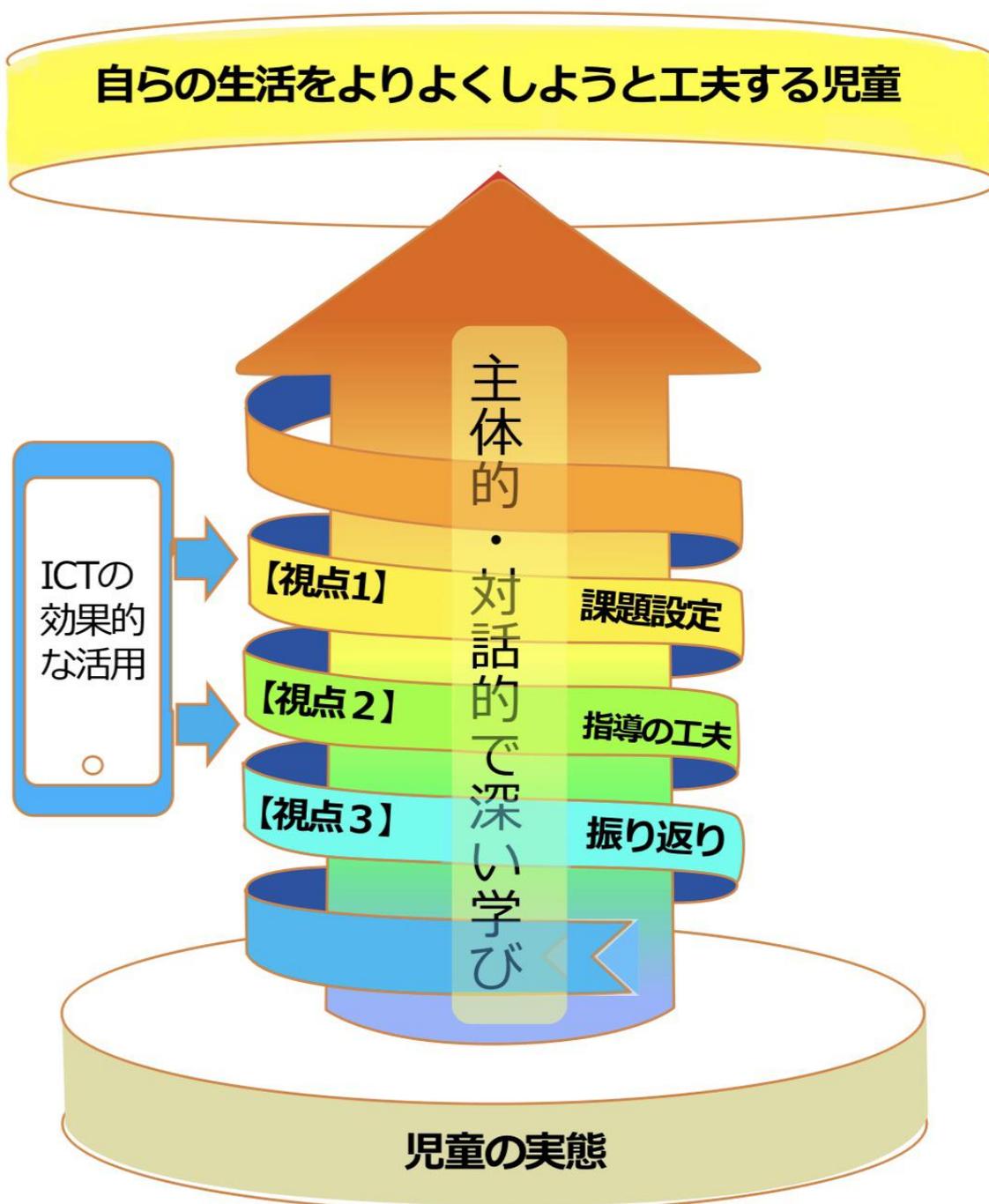


図 21 研究の構想図

5 指導案

【公開授業①】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
消費・環境	5年3組	後藤春奈 教諭 (鹿本小学校)	持続可能な社会へ 物やお金の使い方	P16~17
食生活	6年2組	坂田光 教諭 (南ヶ丘小学校)	まかせてね 今日の食事	P18~20

【公開授業②】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
衣生活	5年2組	有働加織 教諭 (隈府小学校)	ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活	P21~23
課題と実践	6年3組	岩本圭祐 教諭 (西合志中央小学校)	生活を変える チャンス!	P24~25



第5学年3組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 後藤 春奈

1 題材の構想 持続可能な社会へ 物やお金の使い方 (東京書籍) C

児童の姿 終了時の 題材	「持続可能な社会の構築」などの視点から、消費者として、物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫しようとしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	物や金銭の使い方と買い物のしくみや環境に配慮した生活について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
目標に向かうための手立て	○研究の視点 【視点1 課題設定の工夫】 今までの自分や家族の買い物を振り返り、失敗したと思う経験を出し合い、共有し合うことで、よりよい消費者になろうという意欲を高めることができるようにする。 【視点2 指導の工夫】 ロイロノート内のカラーテキスト活用・お金の使い方の疑似体験・具体的な買い物の場面想定によって、児童の意思決定や表現・集約ができるようにする。 【視点3 振り返りの工夫】 振り返りシート（ロイロノート）を活用したり、児童の記入例を全体に紹介したりすることによって、児童の振り返り意欲を高める。		
児童の実態	○一人で牛乳を買う場面を想定した時に選ぶ基準として、銘柄（9人）、値段（7人）、消費・賞味期限（18人）が挙げられた。 ○買い物をするとき大切なことを自由記述で尋ねたところ、 ・値段 ・消費・賞味期限 ・必要かどうか考える ・無駄遣いしない などが多かった。	○「気に入った筆箱があったら、買いますか？」の問いに、買って使用中のものを捨てる（2人）、買って使用中ものを取りあえず残して新しく買ったものを使う（10人）、今使っているものが古くなるまで新しい物を保管しておく（14人）買わない（8人）だった。 ○お年玉を全額貯金する児童が（13人）、保護者に預ける児童が（9人）、どうしてもほしい物を買って残りを貯金（9人）、自分で保管（1人）その他（1人）だった。	○一人買い物の経験を約7割の児童がしている。（おやつ・おもちゃ・食料品などのおつかい） ○物を大切にするために、何かしていることはあるか尋ねたところ、はい（23人）いいえ（11人）だった。「はい」と答えた人の回答は、 ・きちんと保管する ・古くなるまでずっと同じ物を大切に使う ・きずつけない ・整理整頓する などが多かった。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 買い物のしくみや支払いの方法について理解している。 ② 購入に必要な情報の収集・整理について理解し、適切にできる。	① 限りある物や金銭の使い方や消費者の役割について考えている。 ② さまざまな情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い物の仕方について考え工夫している。	① 家族の一員として、今までの買い物を振り返り、生活を改善しようとしている。 ② 上手な物の選び方、使い方の学習を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫し、実践しようとしている。

指導と評価の計画（6時間取り扱い ●本時3/6）

課題	次	時	主たる学習活動	評価内容・方法
目指せ 買い物名人!!	1	1	○消費者の役割や必要な物を手に入れるためのいろいろな方法について理解する。○自身の買い物の失敗の経験を想起する。	【主】① 観察・振り返りシート
	2	1	○収入と支出のバランスがとれるよう、家庭では計画を立ててお金を使っていることを確認する。	【思】① 観察・振り返りシート
		1	●買い物の場面を具体的に想起し、売買契約について学ぶ。	【知】① 演習・振り返りシート
	2	○買い物の方法、支払いの方法について学び、買い物をするとき、どのような情報を集め、整理し、どのように選ぶかを考える。	【知】②【思】② 観察・振り返りシート	
	3	1	○消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買い物と環境や資源との関わりを知る。	【主】② 観察・振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

筆箱を買う場面などを具体的に想起しながら、売買契約について理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	8	1 本時の学習課題を見つめる。	○子どもたちの描いた買い物4コマ漫画の中から、買い物の失敗の例を一つ紹介し、あなたならこのあとどうしますか?と尋ねる。 ・そのまま持っておく。 ・返品する。 ○簡単に返品してもいいのかな。	○子どもたちの4コマ漫画を使うことで、興味関心を高め、自分たちの課題について意識できるようにする。 ○消費者側の都合による返品はお店の厚意であって、本来できないことを伝える。	買い物失敗の例(4コマ漫画)
		買い物で失敗しないために、買い物のしくみを学ぼう。			
展開	10	2 売買契約について学ぶ。 (1) お店での筆箱の買い物場面について考える。 →売買契約について学ぶ。	○売買契約は、どの場面で成立するのでしょうか? ・お金を払ったときかな? ・商品を受け取ったときかな? →正解は、「これください。」「はい。」の場面です。	○児童一人一人の考えを把握するため、ロイロノートを活用する。 ○買う人の「申し出」と売る人の「承諾」によって売買契約が成立することを確認する。	タブレット (ロイロノート)
	5	(2) 他の買い物の場面でも同様に売買契約が成立することを確認する。	○電話での注文やインターネットでの買い物の場合にも、売買契約が成立していると思いますか。 ○他には、どんな場面で売買契約をしているかわかりますか。 ・自動販売機 ・バス ・美容室など	○いろいろな買い物の場面を扱うことで、口頭でも契約が成立することをおさえるとともに、子ども達の日常生活に即した学びに広がるようにする。	・電話での買い物場面イラスト ・インターネットでの買い物の画像
	7	(3) 売買契約成立の場面の問題を解く。	○前回みなさんにしてもらった問題に、もう一度チャレンジしてもらいます。	◎【知】①売買契約について理解している。(シート) ○お店の人の話から、返品や買い物の失敗は資源の無駄につながることもあることを理解する。	・演習シート
終末	5	(4) 返品についてお店の方の話を聞く。	○インターネットでは、「返品は簡単です。」と書かれていますが、返品について、お店の方の話を紹介します。	○返品や買い物の失敗は資源の無駄につながることもあることを理解する。	・お店の方の話
	10	3 本時の学びを振り返る。	○買い物で失敗しないためには、どうしたらよいでしょう。今日の学習の大切な言葉を使って、まとめましょう。 ○振り返りをしましょう。 ・返品はお店の厚意なので、売買契約前によく考えて買い物ができるようになりたい。	○売買契約についての記述やこれからの買い物で気を付けることなどを全体に紹介することで、買い物をする時の心構えを共有する。	タブレット (ロイロノート)

第6学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 T1教諭 坂田 光 T2栄養教諭 山本 弥生

1 題材の構想 まかせてね 今日の食事（東京書籍） B (1)イ(2)イ(3)アイ C (2)アイ

の 題材 終了 時 の 児童 の 姿	食事の大切さや栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解するとともに、環境への配慮、自分や家族の健康を考えた食事づくりをするための調理計画や調理の仕方を工夫し、自分の食生活をよりよくしようとしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	「学びに向かう力, 人間性等」
題材 の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。 ・ 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。 ・ 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定する。 ・ 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組もうとしている。 ・ 自分の生活を振り返って改善したり、工夫したりして実践しようとしている。
目標 に向 かう た め の 手 立 て	<p>○研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 児童の実態調査に加え保護者へのアンケート結果や設定家族の食生活を提示することで自分の食生活における問題に気づき、なりたい自分の姿を具体的にイメージできるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 自分や家族の健康を考えた献立づくりにおいては、設定家族の献立について、1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。また、調理実習や実践報告会においては、調理の過程や作った献立を画像や動画で記録したものを発表させる。これらを通して、自分の考えを表現したり他者の考えを学んだりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 生活の中から課題を見出し、学んだことを生活に生かすという教科の特質から「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行う。また、自分の生活の変化や成長を実感できるようにするためにワークシートを活用し、題材を通して振り返りを蓄積していく。さらに調理の様子や映像を残しておき、技能の習得状況を把握するとともに、改善点が分かるようにする。</p>		
児童 の 実 態	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5年生、6年生でそれぞれ全員に調理経験はある。 ○ 調理のできるようになったと感じるのは「切る」「いためる」「ゆでる」が多い。家庭での調理体験は「よくする」「たまにする」と答えた児童が62%であった。「したことがない」と答えた児童は0と、家庭でもよく実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほとんどの児童が家庭科は将来役に立つと考えている。 ○ 「食習慣について自分の問題は何ですか」（複数回答）の問いに、「栄養バランス」を挙げている児童が22%、「噛む回数が少ない」と「好き嫌い」がそれぞれ24%であった。しかし、実際に改善しようと取り組んでいる児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭科の授業の中でも「食生活の分野が好き」と答える児童が58%と本単元への学習意欲は高い。 ○ 6月の調理実習の際、家庭での実践も行っている。家庭の実態に応じて工夫して取り組んでおり、児童自身も積極的な様子が見られた。

単元（題材）の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 献立を構成する要素が分かり1食分の献立作成の方法について理解している。 ② 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ③ 材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。	① 1食分の献立の栄養バランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	① 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。 ② 自分の生活を振り返って改善したり工夫したりして、実践しようとしている。

指導と評価の計画（10時間取り扱い ●本時3/10）				
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
家族の健康のために1食分の食事を作ろう	1	1	○アンケート結果や設定家族の献立をもとに自分の食生活を振り返り、題材を通してためあてを設定する。	【思】①振り返りシート 【主】①振り返りシート
	2	2	○主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて献立を立てることや、献立を立てる順番を理解する。	【知】①学習シート 【主】①振り返りシート
		3	●一食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解する。	【知】①学習シート ①振り返りシート
		4 5	○ゆでる、いためる調理を組み合わせた「野菜のベーコン巻き」の調理計画を立てる。	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		6	○調理する。（一人調理）	【知】③行動観察・学習シート 【主】①行動観察
	3	7 8	○家族のために作る1食分の献立を考え、調理計画を立てる。（副菜・汁物）	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		課外	家庭実践	
	4	9 10	○家庭実践報告書を作成し、自分の家庭実践を振り返る。実践報告会を通して、これからの食生活に生かす計画を立てる。	【思】①報告書・振り返り 【思】②振り返りシート 【主】②振り返りシート

1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）



献立の内容を考える



栄養のバランスをチェックする

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

1 食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 (T1 T2) ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 はるさんの献立を確認し、本時のめあてを立てる。	○はるさんが考えた献立を見てみましょう。 ・主食、主菜、副菜、みそ汁があるね。 ・黄、赤、緑が全部入っているけど、栄養のバランスはいいのかな。	T1 T2 はるさんの献立を考えることで、献立の構成要素や献立を考えるときに栄養のバランスを考える大切さに気付かせる。	電子黒板
	栄養のバランスを考えた献立を立てよう。				
展開	15	2 はるさんの献立について考える。 (1) 個人で考える。 (2) 栄養バランスについて知る。 (3) 友達と考える。	○はるさんの献立をよりよくするにはどうしたらよいか考えてみましょう。 ・栄養のバランスをよくするにはどうすればいいのかな。 ・緑の食品が足りないようだからみそ汁の実を□□にしてみよう。 ○献立を立てる際の栄養のバランスについて栄養教諭の山本先生にお話を聞いてみましょう。 ○友達と意見交流しましょう。 ・副菜を別の料理に変更してみよう。 ・みそ汁の実を変えたんだね。	T1 タブレット上で可視化した中で、黄・赤・緑のグループを確認する。 T1 T2 選んだ副菜やみそ汁の実について選んだ理由を考えさせるようにする。 T2 黄：赤：緑の割合が、3：1：2を目安にするとよいことを知らせ、栄養のバランスへの理解を深めさせる。	電子黒板 副菜カード タブレット (ロイロノート) 1食分の献立作成プログラム (熊本市教育センター作成)
	20	3 栄養バランスを考えた献立の立て方のポイントをまとめる。 (1) 全体で意見交流をする。 (2) 献立の立て方についてまとめる。	○友達と意見交流した献立について、発表しましょう。 ・緑の食べ物を増やすために生野菜サラダに副菜を変えました。 ・みそ汁の実を旬で緑の□□にしました。 ○栄養のバランスを考えた献立作りのポイントをまとめましょう。 ・副菜や汁物の実で野菜をたくさんとることができる。 ・主食・主菜を決めて、副菜・汁物で栄養のバランスを整える。 ○栄養のバランスを考えた献立を立てるには、どうすればよいかまとめ、はるさんにアドバイスしましょう。	T1 T2 発表した献立に対して述べた理由を認めながら補足し、子ども達の理解が深まるようにする。 T1 複数の食品を組み合わせることで、栄養のバランスを整えることができることに気づかせる。 ◎【知】①栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解しているか。	黄・赤・緑のバランス図 はるさんへのアドバイス
副菜や汁物で使う食品の栄養のバランスを考えると献立を立てることができる。					
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○栄養のバランスを考えた食事づくりができる自分に近づくことができましたか。 ・栄養のバランスのとり方が分かった。 ・栄養のバランスのよい献立を立てるには、副菜や汁物の実で調節できることが分かった。	T1 本時の学びを振り返ることにより次時の学習に生かせるようにする。	タブレット (ロイロノート)

第5学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 有働 加織

1 題材の構想 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（東京書籍）B（5）アイ

の 児 童 の 姿	ミシンぬいに関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、製作を通して、効率的な手順や目的に合った製作の工夫を考えながら、生活に役立つものを作り生活を楽しく快適にしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 安全なミシンの使い方を理解し、適切に使うことができる。 丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見つめ、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考え、工夫している。 実践を評価・改善したり、考えたことを表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくするための課題を見つけ、改善しようと主体的に取り組もうとしている。 実践を振り返り改善するなど、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。
目標 に向 かう た め の 手 立 て	<p>○研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 題材導入時に「使いやすく長く使うことができるエプロンを作ろう」という題材を通したためあてを設定することで、継続的に意欲を喚起させ、そのために必要な手順や製作計画、工夫を自ら考えることができるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 実物や見本、写真を提示し、見比べる活動を行うことで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとにぬい順番や工夫について考え交流し、自分の考えを広げ深めながら製作手順を明確にしていく。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 題材を通した振り返りシートを活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行うことで、自分の生活を振り返り、生活に学びを生かそうとしたり、自分の生活の変化や成長を実感できるようにしたりする。</p>		
児 童 の 実 態	<ul style="list-style-type: none"> ○児童はこれまでに、玉結び、玉どめ、ボタン付け、なみぬい等の学習している。 ○ミシンを使った経験がある児童は1人だった。ミシンに対して「手ぬいより速そう。」「便利。」「というイメージを持っている児童がいる一方で、「危険。」「こわい。」「というマイナスイメージをもっている児童も3割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衣生活に関する前題材「ひと針に心をこめて」の学習では、玉結び、玉どめ、なみぬい、返しぬい、ボタン付け等を安全に正しくできるための工夫について学習している。 ○これまでの手ぬいの学習を振り返り、「うまくぬう方法を知った。」「だんだんぬい方が分かってできるようになった。」「と感じている児童がいた。しかし、「失敗ばかり。」「難しい。」「と苦手意識をもっている児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みには、学習したことを生かし手ぬいでぞうきんを製作した。 ○裁縫の授業に対して、「手ぬいは大変。」「針がこわい。」「と児童もいた。しかし、「家や学校で役立つものを作ってみたい。」「裁縫は大人になってからも役立つ。」「もっと違うぬい方を知りたい。」「と学習を楽しみにしている児童も多い。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ② ミシンなどに用具の安全な取り扱いやミシンぬいによる目的に応じたぬい方について理解しているとともに適切にできる。	① マイエプロンの製作計画やミシンぬいによる製作について問題を見だし、課題を設定している。 ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	① 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いたミシンぬいによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。 ② 実践を振り返って改善したり、生活を工夫したりして、実践しようとしている。

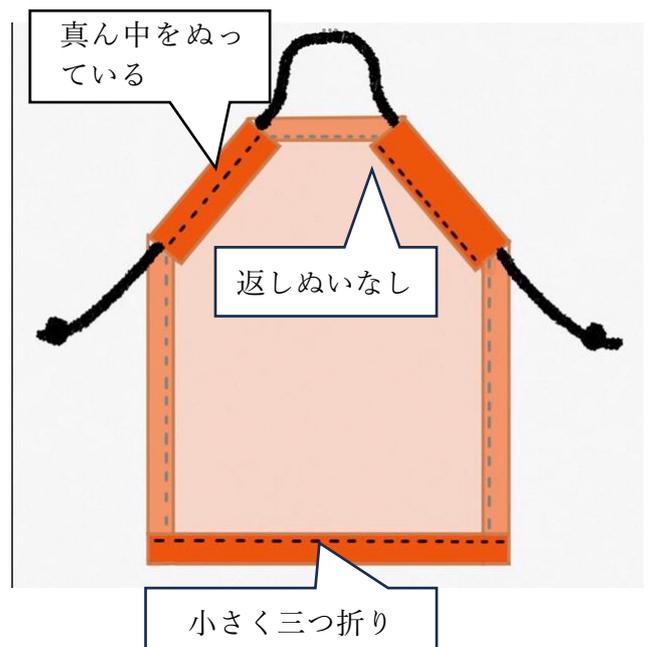
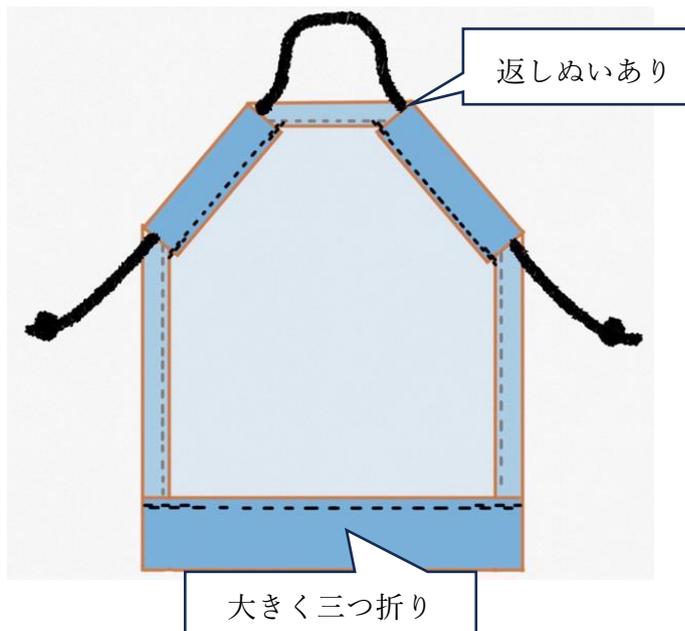
2 本時の授業計画

指導と評価の計画（11時間取り扱い ●本時 6/11）				
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
使いやすく長く使うことができるエプロンを作ろう。	1	1	○ミシンぬいと手ぬいの違いを考えたり、身近なミシンぬいの布製品を観察したりして、ミシンぬいのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。	【思】①シート
	2	2	○ミシンの各部の名前、使い方、安全に使うためのルールを知る。	【知】①シート
	3	3	○ミシンの準備の仕方を知り、下糸や上糸の準備を練習する。	【知】②観察・シート
	4	4	○ミシンを使って、直線ぬいを練習する。	【思】①シート
	5	5	○いろいろな種類の布の素材に触れ、違いや活用方法を考える活動を通して、エプロンにふさわしい布を選び、エプロンに必要な布の大きさを知る。	【思】①シート
	3	6	●エプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。	【思】①シート
		7	○製作計画に沿って、製作する。	【知】②観察・作品
		8	①布にしるしをつける。	【思】②シート
		9	しつけをする。	【主】①観察・シート
		10	②直線ぬいをする。 ③かざりやポケットをつける。 ④アイロンをかけ、ひもを通す。	
	4	11	○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。	【主】②振り返りシート

【見本】

完成見本

比較見本



(1) 本時の目標

エプロンの製作手順や使いやすく長く使うことができるための工夫を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ICT 機器等
導入	3	1 本時のめあてを確認する。	○どんな順番でエプロンを作るのだろう。 ・手順を知りたい。	○前時までの活動を電子黒板に掲示することにより振り返ることができるようにする。	電子黒板
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【めあて】『使いやすく長く使うことができるエプロン』の製作手順を考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】どんな順番でぬったり、どんな工夫をしたりすれば、使いやすく長く使うことができるエプロンができるだろう。</p> </div>				
展開	7	2 ぬう順番を考える。 (1) 個人やペアで考える。 (2) 全体で確認する。	○エプロンを作るには、どこをどんな順番でぬうとよいか考えましょう。 ・布の上と下の部分をぬう。 ・ひもを通すところもぬう。でも、先にぬうとひもが通らないよ。 ・布の重なっているところを見るとぬう順番が分かるかもしれないな。	○紙のミニエプロンを、実際に折り曲げたり、ぬう場所を示したカードを操作したりしながら、順番を考えさせる。 ○見本のエプロンを見ながら、全体でぬう手順を確認していく。	学習シート ミニエプロン タブレット 見本 電子黒板
	25	3 ぬい方の工夫を考える。 (1) グループ考える。 (2) 全体で見つけた工夫を出し合い、確認する。	○使いやすく長く使うことができるための工夫を見つけましょう。 ・ぬい始めとぬい終わりは、返しぬいがしてある。 ・ひも通しの部分のぬい始めとぬい終わりは、はみ出してぬってある。 ・裾が大きく折り曲げていると大きくなって調整できるね。 ○どんな工夫が見つかりましたか？ ・返しぬいをしてひもを通す部分を丈夫にする。 ・裾の長さは調整できるように曲げておく。	○見本のエプロンを比較しながら、裾のぬいしろの違い、長く使うためのよさに気付くことができるようにする。 ○「長く使うことができる」という視点を明確にし、工夫を見つけさせるようにする。 ○工夫を見つけることができないグループには、エプロンのぬう順番を一緒に確認し、関連させて考えさせる。 ◎【思】① エプロンを製作する手順やエプロンを長持ちさせるための工夫について考えている。	見本 ミニエプロン ひも 学習シート 学習シート
終末	10	4 本時の学習について、まとめをする。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【まとめ】ひもが通るように胸の左右の部分を最後にぬったり、三つ折りにしたり返しぬいをしたりすると使いやすく長く使うことができるエプロンになる。</p> </div>				
		5 学びを振り返る。	○今日の学習のふり返りをしましょう。 ・ぬう順番が分かった。 ・長く使うことができるように必要なところは返しぬいをしよう。	○「使いやすさ」「長く使うことができる」の視点で振り返っている児童の振り返りを紹介する。 ○次時から製作に入ることを伝える。	ふり返しシート タブレット

第6学年3組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 岩本 圭祐

1 題材の構想 生活を変えるチャンス！ (東京書籍) A(4)ア

の児童の姿	自分や家族の生活に関心を持ち、これまでの家庭科での学習を生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生活の営みに係る見方・考え方を考慮しながら、よりよい生活を考えて、計画を立てて実践しようとしている。	
	【思考力、判断力、表現力等】	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事または家族との関わりについて日常生活の中から課題を設定し、工夫して計画を立てる。 課題解決に向けて実践し、結果を評価、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
目標に向かうための手立て	<p>○ 研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 設定家族の1日から課題を見付け、自分の家庭の課題と結び付けることや、前回の実践からの気づきや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取組に活かすというねらいを明確にする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 パワーアップポイントをもとに、自分の家族との関わりの中での新たな課題へとつなぎたい。その時に、前回のレポートやこれまで学習してきた題材の振り返りシートから、気づきや改善点を共有し、アドバイスをし合うことで、持続可能で、よりよい生活の改善のヒントとなるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 今までの学習や、授業の終末を振り返ることで、実践に向けた意欲の向上と課題解決に向けた取組をよりよいものにする。課題と改善策はロイロノートにまとめ、活用できるようにする。</p>	
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ○7割の児童が家庭科は将来役に立つと考えている一方で、「今の自分に役立っているか」という問いに対して役立っていると答えた児童は半数に留まった。 ○自分の生活を変えたいと考えている児童は全体の約半数だった。今の生活に課題を感じている児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○約8割の児童が家庭科は好きと答えている。好きな理由として「調理が楽しいから」「日常生活でも使えるから」などが挙げられ、家庭科の授業を楽しみにしている児童が多い。しかし、苦手意識や生活とのつながりを見いだせず、好きではないと回答している児童もいる。 ○家庭科で学習したことを家庭で実践している児童は約7割である。家庭科が好きでも、実践に結びついていない児童が数名いる。

題材の評価基準	
思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①家庭の仕事または家族との関わりについて日常生活の中から問題を見だし、課題を設定している。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
②家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて、よりよい方法を考え、計画を工夫している。	②家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
③家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	③家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族との関わりに関する課題を見つけ、次の実践に取り組もうとしている。
④家庭の仕事または家族との関わりに関する課題解決に向けて実践した結果を評価・改善している。	

指導と評価の計画（3時間取り扱い ●本時 1/3）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
きることを実践しよう 家族のためによりよく	1	1	●自分の生活を見つめ、問題を見だし、学習課題を設定する。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
		課外	○家族とともに仮課題について話し合い、決定する。	【主】①学習シート
	2	1	○実践するための計画を立てる。	【思】②実践レポート
		課外	○家庭で実践する。 ○実践報告書を作る。	【思】③実践レポート 【主】②振り返りシート
	3	1	○実践報告会を開き、これからの生活に活かせることを考える。	【思】④学習シート 【主】③振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

今まで学習してきたことを生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	12	1 本時の学習課題を見つける。 (1) これまで行った実践を振り返る。 (2) 設定家族の一日の中から課題を見つける練習をする。	○今までどんなことを学習してきましたか。 ・ゆでる、炒める等の調理ができるようになった。 ・手縫いやミシンでいろいろな物を作った。 ○これまでの実践からの気付きや現在の様子からよりよくできそうなパワーアップポイントを考えよう。 ・誰のために何をしようかな。	○これまでの実践のシートを振り返らせる。 ○設定家族は、自分や家族の課題が見えやすい内容にする。	電子黒板 これまでの学習シート、製作物の写真 タブレット(ロイロノート) 設定家族電子黒板
		よりよい生活をするために、自分や家族に向けたパワーアップ大作戦を考えよう。			
展開	10	2 生活の営みに係る見方・考え方を考慮しながら、自分の家の課題を考え、友達とも話し合い、さらに改善する。	○自分の家庭について課題を考えてみましょう。 ・自分もこの設定家族と同じようなことがあった。 ・朝食がごはんだけの日がある。 ・家族のために片付けをしたい。	○課題となる観点は生活の営みに係る見方・考え方を参考にさせる。 ○対象を明確にし、相手意識と目的意識を持てるようにする。	タブレット(ロイロノート) 学習シート
	15	3 友達の考えを聞き、課題を仮決定する。	○友達と相談してどのような改善策があるか考えてみましょう。 ・1日の生活の計画を立てて過ごしてみるのはどうかな。 ・うちのみそ汁は具材がたくさん入っているから栄養満点だよ。 ・私も家の片付けしようかな。 ○自分や家族のためにできる課題を設定しましょう。	◎【思】①日常生活の中から自分や家族に向けた課題を設定できているか。 ○導入で扱ったパワーアップポイントを参考にするように声掛けを行う。	
終末	8	4 次時の学習を知り、本時の学びを振り返る。	○家の人と相談して決定したら、計画を立てます。 ○本時の振り返りをしましょう。	◎【主】①家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。	学習シート

期日:令和6年10月31日(木)
会場:合志市立合志南小学校

令和6年度 熊本県小学校家庭科教育研究大会 菊池・山鹿大会 運営組織図



7 あとがき

本研究大会は、令和4年度と令和5年度に研究を積み上げてこられた熊本市大会の追試でした。研究構想をそのまま引き継ぎ、熊本市大会で実施された授業を児童の実態に合わせて、若干変更しながら行いました。よって、指導案の形式も熊本市で作成されたものを使用しています。振り返り等で使用するロイロノートについては、菊池郡市では令和6年9月から使用可能となり、授業者の先生方にはご心配をおかけしました。授業者は、菊池郡市から3名、山鹿市から1名いずれも他校の先生方でした。児童との顔合わせや事前の授業など、できる限り児童と関わっていただき当日を迎えています。これまでの研究会はリモートを多用し、参集での研修は1回しかできませんでした。研究の積み上げは十分ではありませんが、熊本市大会の追試を行うことで、県がめざす家庭科教育の方向性を確認することができました。実践発表という形にさせていただき、そして、研究の考察は本大会を終えて整理することとしております。ご理解をいただければ幸いです。研究を通して、地域を越えた教職員同士、教職員と児童との出会いがあり、同じ目標に向かって力を合わせるという財産を得ることができました。1年間ではありましたが、研究で得た成果を活かしつつ今後も各地区で実践を重ねて参ります。

合志南小学校を会場に、研究主題を「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」とし、4つの分科会で授業研究会を開催することができました。各分科会では、熊本県教育庁市町村教育局義務教育課指導主事 清永康代 様、熊本大学大学院教育学研究科教授 八幡彩子 様、菊池市立泗水西小学校長 福島恵美子 様、菊池市立泗水東小学校長 前田美幸 様にご指導・ご助言をいただき、今後の研究へご示唆をいただきました。本日も参会の皆様のご協力のもと、熱心な協議ができましたことに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

菊池・山鹿大会実行委員会
会長 土井 昭子

令和6年度（2024年度） 研究同人

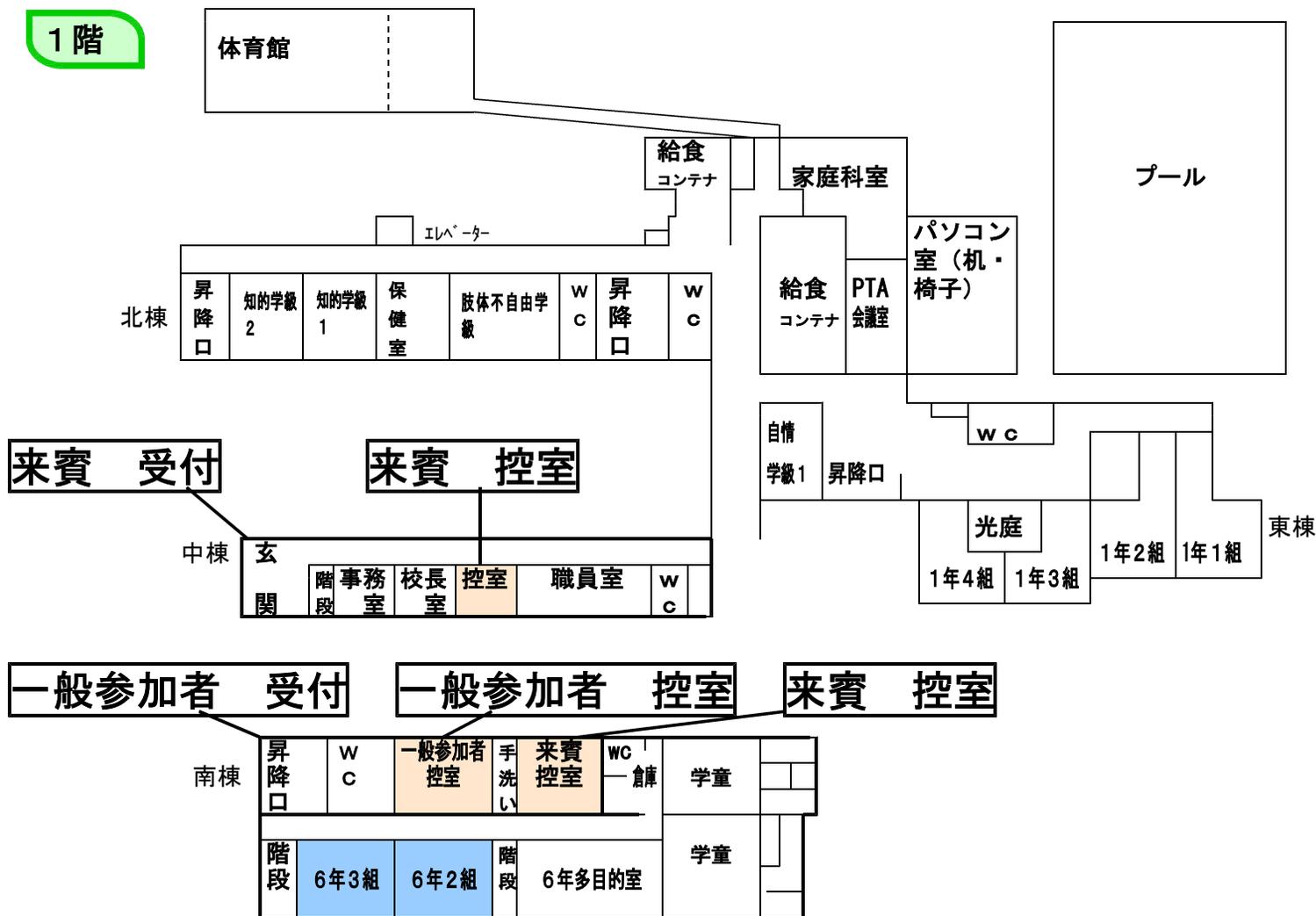
	県会長	古家慎也	県副会長	堀川誠治 松並直子
	大会実行委員長	土井昭子	大会副委員長	高木由実
大会事務局	事務局長・総務部長	萩尾隆洋・江原淳貴（菊池・山鹿）		金子紀子（県）
	研究部長	吉良明子・田中佳子（菊池・山鹿）		中村晴海（県）
	広報部長	高木由実（菊池・山鹿）		
	研究協力員	清水太佳子・牛島めぐみ・金子紀子・中村晴海（熊本市）		

実行委員	藤田圭	萩尾隆洋	江原淳貴	有働加織	青井光子	田中佳子	坂田光
	緒方朋子	岩本圭祐	溝上みき	武田里奈	島田由香	大内田慎悟	堤尚子
	稗田麻生	緒方愛	加藤優佳	金田千佳	上川愛里	大塚美奈子	吉良明子
	北本美香	後藤春奈	村上裕子	西川桂子		合志南小職員一同	

指導・助言	熊本県教育庁市町村教育局義務教育課 指導主事 清永康代 様
	熊本大学大学院 教授 八幡彩子 様
	菊池市立泗水西小学校 校長 福島恵美子 様
	菊池市立泗水東小学校 校長 前田美幸 様

合志市立合志南小学校教室配置図

1階



2階

